

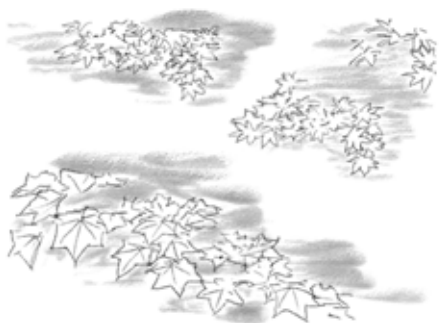
図鑑と見比べているうちに特徴的な葉の木は見分けがつくようになった。例えばミズナラとコナラ。どちらも楕円形で根元が少し細長くなっており、縁が大きくギザギザしていて他の木の葉と違いが良くわかる。やっかいだったのはミズナラとコナラの見分け方だった。最初、小さな葉の方がコナラと思っていたのだが、それは個体差で葉の根元に軸があるかどうかが決め手のようだ。ミズナラは軸がなくて枝からすぐ葉のギザギザが始まる。針葉樹も常緑だったのでトドマツかエゾマツということにした。その見分けは木肌の色と肌合いが決め手と考えた。そうやって見分けるポイントを自分のものにすると思える。

手のひら型の葉も他の葉とは見分けやすいのだが、それが何の木か同定するのは結構手間取った。手のひら型の葉はおおむねカエデ科だと思うのだが、それには何々モミジというのと何々カエデというのがいろいろあるのだ。モミジが指の股の切れ込みが深く、カエデは手のひらが立派と思っていると、指の切れ込みが深いハウチワカエデもあつたりする。それに個体差もありそうなので迷ってしまう。そもそも私には植物を見分ける観察力が無いのかも思ってしまうが、日頃あまり注意して木や花を見てこなかったことで植物目が未熟なのだということにして、ひたすら観るように努めた。その結果、私なりに春先に咲く花が濃い赤色で葉が深く切れ込んでいるのをヤマモミジ、花が緑色で葉の切れ込みが浅く手のひらが立派なのをイタヤカエデとしてみた。中には微妙に違いそうなものもあるのだが、それはあとでもっと植物目が養われてから見分けることにした。

そんな感じで、とりあえず全樹木の同定が完了して図面に記録し終えたのが六月の頭だった。もつとじつくり一年を通して、紅葉の様子や実のなり方、木肌の様子など観察してから決めれば良いのだが、それは今後の楽しみとして一旦の樹木配置図の完成とした。いろいろ間違えはあると思うが、その時点で確認された樹木は三十一種類、三百二十三本。

最も本数が多かったのはトドマツで四十八本。これは、造成当時のことを知っているご近所さんの話だと造成に伴って植えられたもので、確かに道路ぎわに並木のように並んでいる。それに太い。次に多かったのがカワヤナギで三十八本。これは湿気の多いこの土地に適した樹種で造成後に生えてきたものと思われる。ヤナギもいろいろな種類があつて同定が難しかったが、その他にイヌコリヤナギ、バッコヤナギなどが確認できた。次に多かったのがコナラ、ミズナラとクリ。これらは、おそらくエゾリスが植樹したものだだろう。特にクリは日頃エゾリスが良く行き来する姿を見るあたりに点々と生えている。

大木に育っているのはハンノキとヤチダモ。特にヤチダモは家の窓の正面に堂々と立っている。春先に葉が出てくるのが一番遅いのだが葉の茂り方は立派だ。樹木調べでわかったのだが、そのヤチダモの大木から南の方角に無数のヤチダモの小さな木が生えて小さな森ようになっていた。冬の間の北風で種を飛ばして子孫を残しているのだった。





凡例

01) トドマツ (トト)	●	26) シナノキ (シナ)	●
02) クリ (クリ)	●	27) ヤマグル (ヤマ)	●
03) シラカバ (シカ)	●	28) アキウシ (アキ)	●
04) ヤマキスミ (ヤマ)	●	30) ハギ (ハギ)	●
05) イナヤシエダ (イナ)	●	31) ノボク (ノボ)	●
06) ハウチワシエダ (ハウ)	●	32) ツツジ (ツツ)	●
07) ハンノキ (ハン)	●	33) ストローブマツ (スマ)	●
08) ヤチヂモ (ヤチ)	●	34) コシアツラ (アツ)	●
09) ハハヒレ (ハハ)	●	35)	○
10) ノコシ (ノコ)	●	36)	○
11) ミズキ (ミズ)	●	37)	○
12) カウヤナギ (カウ)	●		
13) イヌコリヤナギ (イヌ)	●		
14) ハクコヤナギ (ハク)	●		
15) キノエヤナギ (キノ)	●		
16) コブシ (コブ)	●	0A) ヤシキ (ヤシ)	●
17) スズ (スズ)	●	0B) フシゴクメ (フシ)	●
18) ツリハ (ツリ)	●	0C) カラス (カラス)	●
19) ヤマザクラ (ヤマ)	●	0D) フルヘリー (フル)	●
20) エリヤマザクラ (エリ)	●		
21) オウノキ (オウ)	●		
22) トチノキ (トチ)	●		
23) コナラ (コナ)	●		
24) ミズナラ (ミズ)	●		
25) イチイ (イチ)	●		

